

フランス語学フランス文学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 学期	曜日	講時	頁	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
フランス文学特論Ⅰ	フランス文学批評史(1)	2	今井 勉	1学期	木	2	1	フランス文学特論Ⅰ
フランス文学特論Ⅱ	フランス文学批評史(2)	2	今井 勉	2学期	木	2	2	フランス文学特論Ⅱ
フランス文学特論Ⅲ	文学をめぐる理論と常識(1)	2	今井 勉	1学期	火	2	3	フランス文学特論Ⅲ
フランス文学特論Ⅳ	文学をめぐる理論と常識(2)	2	今井 勉	2学期	火	2	4	フランス文学特論Ⅲ
フランス文化学特論Ⅰ	Jean Echenoz	2	MEVEL YANN E RIC	1学期	水	4	5	フランス文学特論Ⅲ
フランス文化学特論Ⅱ	喪のフランス詩を読む	2	熊谷 謙介	集中(1学期)			6	フランス文学特論Ⅲ
フランス語学研究演習Ⅰ	フランス語学の現代的トピックⅠ	2	阿部 宏	1学期	水	5	7	フランス語学研究演習Ⅰ
フランス語学研究演習Ⅱ	フランス語学の現代的トピックⅡ	2	阿部 宏	2学期	水	5	8	フランス語学研究演習Ⅱ
フランス語学研究演習Ⅲ	Pascal Quignard	2	MEVEL YANN E RIC	1学期	月	5	9	フランス語学研究演習Ⅲ
フランス語学研究演習Ⅳ	Pascal Quignard	2	MEVEL YANN E RIC	2学期	月	5	10	フランス語学研究演習Ⅳ
フランス文学研究演習Ⅰ	文学と表象芸術(1)	2	今井 勉	1学期	水	2	11	フランス文学研究演習Ⅰ
フランス文学研究演習Ⅱ	文学と表象芸術(2)	2	今井 勉	2学期	水	2	12	フランス文学研究演習Ⅱ
フランス文学研究演習Ⅲ	中世・ルネサンスの伝語伝文学研究(1)	2	黒岩 卓	1学期	月	3	13	フランス文学研究演習Ⅲ
フランス文学研究演習Ⅳ	中世・ルネサンスの伝語伝文学研究(2)	2	黒岩 卓	2学期	月	3	14	フランス文学研究演習Ⅳ

科目名：フランス文学特論 I / French Literature (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：今井 勉 (教授)

講義コード：LM14209, **科目ナンバリング：**LGH-LIT638J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： フランス文学特論 I 】

1. 授業題目：

フランス文学批評史 (1)

2. Course Title (授業題目)：

History of french criticism (1)

3. 授業の目的と概要：

19 世紀以降のフランスの文学批評の歴史を振り返ります。文学批評史は時代の政治・経済・文化の動きと密接な関係を保っています。この授業では、アントワヌ・コンパニョンの『文学の第三共和国』(1983)を主要参考文献として、19 世紀後半から 20 世紀前半のフランス第三共和政期の文学批評の流れをたどってみます。

4. 学習の到達目標：

フランス第三共和政期の文学批評の勢力図の変遷を知り、文学と歴史の関わりについて考察を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

(以下、授業で扱う節・進度は変更される場合があることをあらかじめご了承ください。)

1. 導入。コンパニョン『文学の第三共和国』についての概説。
2. 同書第 2 部「文学とは何か」の序章および第 1 章第 7 節までのまとめ
3. 同第 1 章 (8) 子供・王子・作家
4. 同第 1 章 (9) 『失われた時を求めて』を読む
5. 同第 2 章フローベール論 (1)
6. 同第 2 章フローベール論 (2)
7. 同第 2 章フローベール論 (3)
8. 同第 3 章フローベールおよびテヌ論 (1)
9. 同第 3 章フローベールおよびテヌ論 (2)
10. 同第 3 章フローベールおよびテヌ論 (3)
11. 同第 3 章フローベールおよびテヌ論 (4)
12. 同第 3 章フローベールおよびテヌ論 (5)
13. 同第 3 章フローベールおよびテヌ論 (6)
14. まとめの考察 (1)
15. まとめの考察 (2)

6. 成績評価方法：

授業への参加状況 100%

7. 教科書および参考書：

プリントを配付します。主要参考文献は以下の通り。アントワヌ・コンパニョン『文学の第三共和国』(1983)〔邦訳なし〕、『理論の魔』(1998)〔邦訳『文学をめぐる理論と常識』(2007)〕、ミシェル・ジャルティ『フランスにおける文学批評 歴史と方法 (1800-2000)』(2016)〔邦訳なし〕。

8. 授業時間外学習：

毎回、引用文の訳を担当していただく場合がありますので、ご準備ください。

9. その他：なし

連絡先：tsutomu@m. tohoku. ac. jp

科目名：フランス文学特論Ⅱ／ French Literature(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

学期：2学期, **単位数：**2

担当教員：今井 勉 (教授)

講義コード：LM24210, **科目ナンバリング：**LGH-LIT639J, **使用言語：**日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： フランス文学特論Ⅱ 】

1. 授業題目：

フランス文学批評史 (2)

2. Course Title (授業題目)：

History of french criticism (2)

3. 授業の目的と概要：

19世紀以降のフランスの文学批評の歴史を振り返ります。文学批評史は時代の政治・経済・文化の動きと密接な関係を保っています。この授業では、アントワヌ・コンパニョンの『文学の第三共和政』(1983)を主要参考文献として、19世紀後半から20世紀前半のフランス第三共和政期の文学批評の流れをたどってみます。

4. 学習の到達目標：

フランス第三共和政期の文学批評の勢力図の変遷を知り、文学と歴史の関わりについて考察を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

(2017年度前期の講義内容を反省的に発展・再編成した講義を行います。)

第1回 導入

第2回 ギュスターヴ・ランソン (1) 文学か歴史か

第3回 ギュスターヴ・ランソン (2) 大学と歴史家

第4回 ギュスターヴ・ランソン (3) 文学史

第5回 ギュスターヴ・ランソン (4) 講壇批評

第6回 ギュスターヴ・ランソン (5) ドレフュス事件

第7回 ギュスターヴ・ランソン (6) 修辞学教育

第8回 ギュスターヴ・ランソン (7) 大作家

第9回 ギュスターヴ・ランソン (8) アクション・フランセーズ vs ソルボンヌ

第10回 ギュスターヴ・ランソン (9) シャルル・ペギー

第11回 ギュスターヴ・ランソン (10) ランソン主義

第12回 ギュスターヴ・ランソン (11) 人格礼賛

第13回 ギュスターヴ・ランソン (12) サント＝ブーヴ、テーヌ、ブリュヌチエール

第14回 ギュスターヴ・ランソン (13) テーヌの独裁

第15回 まとめ

6. 成績評価方法：

授業への参加状況 100%

7. 教科書および参考書：

アントワヌ・コンパニョン『文学の第三共和政』(1983)〔邦訳なし〕、『理論の魔』(1998)〔邦訳『文学をめぐる理論と常識』(2007)〕、ミシェル・ジャルティ『フランスにおける文学批評 歴史と方法 (1800-2000)』(2016)〔邦訳なし〕

8. 授業時間外学習：

配付資料の予習をして授業に臨むこと。

9. その他：なし

連絡先：tsutomu@m.tohoku.ac.jp

科目名：フランス文学特論Ⅲ／ French Literature(Advanced Lecture)Ⅲ

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

学期：1学期, **単位数：**2

担当教員：今井 勉 (教授)

講義コード：LM12208, **科目ナンバリング：**LGH-LIT640J, **使用言語：**日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： フランス文学特論Ⅲ 】

1. 授業題目：

文学をめぐる理論と常識 (1)

2. Course Title (授業題目)：

Theory and common sense (1)

3. 授業の目的と概要：

この授業では、アントワヌ・コンパニョン著『文学における理論と常識』を参考にして、文学研究における様々な方法論の特徴を学ぶ一方で、実際の論文(研究ノート、レポート、雑誌向けの比較的少ない分量の論文、修士論文や博士論文等の比較的長い分量の論文)を構想・執筆するにあたって最も重要となる問題設定(問題意識の明確化)の仕方と、飛躍のない論理展開の方法について、事例を基に実践的に考えます。

4. 学習の到達目標：

文学研究における様々な方法論の特徴を知り、自身の論文の構想と実際の執筆について具体的かつ実践的な見通しを持つことができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 オリエンテーション

第2回 文学(1); 問題を探すこと(1)

第3回 文学(2); 問題を探すこと(2)

第4回 文学(3); 問題を探すこと(3)

第5回 文学(4); 問題を探すこと(4)

第6回 文学(5); 問題を探すこと(5)

第7回 文学(6); 問題を探すこと(6)

第8回 作者(1); 問題意識を明らかにすること(1)

第9回 作者(2); 問題意識を明らかにすること(2)

第10回 作者(3); 問題意識を明らかにすること(3)

第11回 作者(4); 問題意識を明らかにすること(4)

第12回 作者(5); 問題意識を明らかにすること(5)

第13回 作者(6); 問題意識を明らかにすること(6)

第14回 作者(7); 問題意識を明らかにすること(7)

第15回 まとめ

6. 成績評価方法：

授業への参加度(担当箇所の翻訳および口頭発表など) 100%

7. 教科書および参考書：

プリントを配付します。

8. 授業時間外学習：

毎回、十分な予習をして授業に臨むこと。

9. その他：なし

連絡先 tsutomu@m.tohoku.ac.jp

科目名：フランス文学特論Ⅳ／ French Literature(Advanced Lecture)Ⅳ

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

学期：2学期, **単位数：**2

担当教員：今井 勉 (教授)

講義コード：LM22209, **科目ナンバリング：**LGH-LIT641J, **使用言語：**日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： フランス文学特論Ⅲ 】

1. 授業題目：

文学をめぐる理論と常識 (2)

2. Course Title (授業題目)：

Theory and common sense (2)

3. 授業の目的と概要：

この授業では、アントワヌ・コンパニョン著『文学における理論と常識』を参考にして、文学研究における様々な方法論の特徴を学ぶ一方で、実際の論文(研究ノート、レポート、雑誌向けの比較的少ない分量の論文、修士論文や博士論文等の比較的長い分量の論文)を構想・執筆するにあたって最も重要となる問題設定(問題意識の明確化)の仕方と、飛躍のない論理展開の方法について、事例を基に実践的に考えます。

4. 学習の到達目標：

文学研究における様々な方法論の特徴を知り、自身の論文の構想と実際の執筆について具体的かつ実践的な見通しを持つことができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 オリエンテーション

第2回 世界(1); 観点を相対化すること(1)

第3回 世界(2); 観点を相対化すること(2)

第4回 世界(3); 観点を相対化すること(3)

第5回 世界(4); 観点を相対化すること(4)

第6回 世界(5); 観点を相対化すること(5)

第7回 世界(6); 観点を相対化すること(6)

第8回 読者(1); 明快に書くこと(1)

第9回 読者(2); 明快に書くこと(2)

第10回 読者(3); 明快に書くこと(3)

第11回 読者(4); 明快に書くこと(4)

第12回 読者(5); 明快に書くこと(5)

第13回 読者(6); 明快に書くこと(6)

第14回 読者(7); 明快に書くこと(7)

第15回 まとめ

6. 成績評価方法：

授業への参加度(担当箇所の翻訳および口頭発表など) 100%

7. 教科書および参考書：

プリントを配付します。

8. 授業時間外学習：

毎回、十分な予習をして授業に臨むこと。

9. その他：なし

連絡先 tsutomu@m.tohoku.ac.jp

科目名：フランス文化学特論 I / French Culture (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：MEVEL YANN ERIC (准教授)

講義コード：LM13404, **科目ナンバリング：**LGH-LIT642F, **使用言語：**英語以外の外国語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： フランス文学特論Ⅲ 】

1. 授業題目：

Jean Echenoz

2. Course Title (授業題目)：

Jean Echenoz

3. 授業の目的と概要：

- approches thématiques, poétiques et stylistiques d'une œuvre romanesque
- apprentissage du mode d'analyse d'une œuvre complète
- pratique de l'explication de textes littéraires
- pratique de l'argumentation
- analyse de documents

4. 学習の到達目標：

- le genre ; la narration ; le rythme narratif
- la réinvention du biographique par le roman
- l'ironie et le ludique

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Introduction
- 2) Introduction
- 3) Explication de texte
- 4) Explication de texte
- 5) Explication de texte
- 6) Explication de texte
- 7) Explication de texte
- 8) Explication de texte
- 9) Explication de texte
- 10) Explication de texte
- 11) Explication de texte
- 12) Explication de texte
- 13) Explication de texte
- 14) Explication de texte
- 15) Explication de texte
- 16) Travaux d'étudiants

6. 成績評価方法：

L'évaluation prendra d'abord la forme d'un contrôle continu, qui demande une participation active aux cours. Celui-ci comptera pour 50% dans l'évaluation globale. Il s'agira aussi de présenter une explication de texte ou un exposé (25%) et, par écrit, un bref compte rendu critique (25%).

7. 教科書および参考書：

Jean Echenoz, Ravel, Paris, Minuit

8. 授業時間外学習：

Pour toute explication de texte, il faudra avant le cours effectuer les recherches utiles (vocabulaire, grammaire, références...), en s'interrogeant sur les fonctions et effets de ce texte.

9. その他：なし

科目名：フランス文化学特論Ⅱ／ French Culture (Advanced Lecture) II

曜日・講時：前期集中 その他 連講

学期：集中(1 学期)， **単位数：**2

担当教員：熊谷 謙介（非常勤講師）

講義コード：LM98823， **科目ナンバリング：**LGH-LIT643J， **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： フランス文学特論Ⅲ 】

1. 授業題目：

喪のフランス詩を読む

2. Course Title (授業題目)：

Reading of french poems

3. 授業の目的と概要：

大切な人を失ったとき、詩人たちはどのように喪の時間を過ごすのか？ そして、もし失われたものが言葉によって蘇るのであれば、喪こそ文学の始まりと考えられるのではないかと。この授業ではとりわけ亡き妻を連れ戻しに地獄降りをしたオルフェウスの神話に焦点を当てて、現代の詩人にまで反復されるオルフェウス体験に迫りたい。また喪の問題を出発点にして、フランス近現代詩のエッセンスに触れる機会としたい。

4. 学習の到達目標：

- フランスを中心とした、喪をテーマとする文学・詩・視覚芸術の特徴を理解する。
- 近代詩の特質が理解できる。
- 実際にテキストを読解し、分析の技法を身につけることで、学生自身の研究に生かすことができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回 授業の進め方の紹介。イントロダクション——喪の詩とは？
- 第2回 『喪の日記』——ロラン・バルト
- 第3回 喪の空間としての部屋——バルト、トリュフォー、モレット
- 第4回 忘却の河——ミシェル・ドゥギー『尽き果てることなきものへ喪をめぐる省察』
- 第5回 追悼文という「文学」
- 第6回 愛する死者を見ることはできるか？——オルフェウスの神話
- 第7回 オルフェウスの「失敗」？——バルト、ブランショ
- 第8回 不在を歌う詩——マラルメ(1)
- 第9回 言葉による「墓」——マラルメ(2)
- 第10回 「私には千年の歳をとったよりもたくさんの思い出がある」——ボードレール(1)
- 第11回 恋人たちの死——ボードレール(2)
- 第12回 ボヘミアンの生と死——ネルヴァル(1)
- 第13回 夢うつつの境へ——ネルヴァル(2)
- 第14回 カタストロフと「挽歌」
- 第15回 まとめ、ディスカッション

6. 成績評価方法：

- 授業への参加度 50%（発言やコメントペーパーなどで積極的に参加しているかどうかで評価する）
- レポート 50%（授業で教えた分析方法を使って、自分で選んだ作品についてレポートを提出し、それを評価する）

7. 教科書および参考書：

必要なテキストは授業初回に配布しますので、受講を希望する方は必ず初回の授業に出席してください。参考書に関しては以下のとおり。

- ・野村喜和夫『オルフェウスの主題』水声社、2008 年。
- ・竹内整一『「かなしみ」の哲学』NHK ブックス、2009 年。
- ・宮地尚子『トラウマ』岩波新書、2013 年。

8. 授業時間外学習：

授業で扱う文学作品を前日までに読んで予習してくる。ポイントについてはこちらで指示する。

9. その他：なし

この授業ではフランス詩を中心に扱いますが、その他の地域の作品や映像作品にも触れます。また、文学・芸術を論ずる上で基礎となる、文化や社会の問題にもアプローチします。

科目名：フランス語学研究演習Ⅰ／ French Linguistics(Advanced Seminar)Ⅰ

曜日・講時：前期 水曜日 5講時

学期：1学期， 単位数：2

担当教員：阿部 宏（教授）

講義コード：LM13506， 科目ナンバリング：LGH-LIT644J， 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： フランス語学研究演習Ⅰ 】

1. 授業題目：

フランス語学の現代的トピックⅠ

2. Course Title (授業題目)：

Sujets contemporains de la langue françaiseⅠ

3. 授業の目的と概要：

フランス語に関する論文を読みながら，フランス語学・一般言語学・言語学史・対照言語研究の基礎概念を紹介・解説し，フランス語の諸現象について考える。また，日本語，英語との対照的考察を行う。

4. 学習の到達目標：

- ・フランス語学・一般言語学・仏英日対照言語学の基礎が理解できる。
- ・フランス語学の研究史が把握できる。
- ・語学研究の方法論が理解できる。
- ・言語に潜在する主観性概念への関心が高まる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. フランス語学関連文献読解（1）
3. フランス語学関連文献読解（2）
4. フランス語学関連文献読解（3）
5. フランス語学関連文献読解（4）
6. 一般言語学関連文献読解（1）
7. 一般言語学関連文献読解（2）
8. 一般言語学関連文献読解（3）
9. 一般言語学関連文献読解（4）
10. 言語学史関連文献読解（1）
11. 言語学史関連文献読解（2）
12. 言語学史関連文献読解（3）
13. 対照言語学関連文献読解（1）
14. 対照言語学関連文献読解（2）
15. まとめと筆記試験

6. 成績評価方法：

平常点 40%，筆記試験 60%

7. 教科書および参考書：

プリント使用。

参考書：阿部宏『言葉に心の声を聞く』（2015）東北大学出版会。

他に，関連図書について，適宜推薦します。

8. 授業時間外学習：

教室で適宜テーマを与えますので，関連資料を調査し，各自考えていただきます

9. その他：なし

科目名：フランス語学研究演習Ⅱ／ French Linguistics(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

学期：2学期， **単位数：**2

担当教員：阿部 宏（教授）

講義コード：LM23507， **科目ナンバリング：**LGH-LIT645J， **使用言語：**日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： フランス語学研究演習Ⅱ 】

1. 授業題目：

フランス語学の現代的トピック Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Sujets contemporains de la langue française Ⅱ

3. 授業の目的と概要：

フランス語に関する論文を読みながら，フランス語学・一般言語学・言語学史・対照言語研究の基礎概念を紹介・解説し，フランス語の諸現象について考える。また，日本語，英語との対照的考察を行う。

4. 学習の到達目標：

- ・フランス語学・一般言語学・仏英日対照言語学の基礎が理解できる。
- ・フランス語学の研究史が把握できる。
- ・語学研究の方法論が理解できる。
- ・言語に潜在する主観性概念への関心が高まる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. フランス語学関連文献読解（1）
3. フランス語学関連文献読解（2）
4. フランス語学関連文献読解（3）
5. フランス語学関連文献読解（4）
6. 一般言語学関連文献読解（1）
7. 一般言語学関連文献読解（2）
8. 一般言語学関連文献読解（3）
9. 一般言語学関連文献読解（4）
10. 言語学史関連文献読解（1）
11. 言語学史関連文献読解（2）
12. 言語学史関連文献読解（3）
13. 対照言語学関連文献読解（1）
14. 対照言語学関連文献読解（2）
15. まとめと筆記試験

6. 成績評価方法：

平常点 40%，筆記試験 60%

7. 教科書および参考書：

プリント使用。

参考書：阿部宏『言葉に心の声を聞く』（2015）東北大学出版会。

他に，関連図書について，適宜推薦します。

8. 授業時間外学習：

教室で適宜テーマを与えますので，関連資料を調査し，各自考えていただきます

9. その他：なし

科目名：フランス語学研究演習Ⅲ／ French Linguistics(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 月曜日 5講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：MEVEL YANN ERIC (准教授)

講義コード：LM11502, **科目ナンバリング：**LGH-LIT646F, **使用言語：**英語以外の外国語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： フランス語学研究演習Ⅲ 】

1. 授業題目：

Pascal Quignard

2. Course Title (授業題目)：

Pascal Quignard

3. 授業の目的と概要：

- approches thématiques, poétiques et stylistiques d'une œuvre romanesque
- apprentissage du mode d'analyse d'une œuvre complète
- pratique de l'explication de textes littéraires
- pratique de l'argumentation à l'écrit et à l'oral
- analyse de doc

4. 学習の到達目標：

- la question du genre ; le mode de narration
- l'ascèse comme sujet et écriture
- littérature et musique
- littérature et cinéma

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Introduction
- 2) Introduction
- 3) Explication de texte
- 4) Explication de texte
- 5) Explication de texte
- 6) Explication de texte
- 7) Explication de texte
- 8) Explication de texte
- 9) Explication de texte
- 10) Explication de texte
- 11) Explication de texte
- 12) Explication de texte
- 13) Explication de texte
- 14) Explication de texte
- 15) Explication de texte
- 16) Travaux d'étudiants

6. 成績評価方法：

L'évaluation prendra d'abord la forme d'un contrôle continu, qui demande une participation active aux cours. Celui-ci comptera pour 50% dans l'évaluation globale. Il s'agira aussi de présenter une explication de texte sur l'œuvre étudiée (25%) et, par écrit, un bref compte rendu critique (25%).

7. 教科書および参考書：

Pascal Quignard, Tous les matins du monde, Paris, Gallimard, collection Folio plus Classiques (dossier de Jean-Luc Verlet), 2010.

8. 授業時間外学習：

Pour toute explication de texte, il faudra avant le cours effectuer les recherches utiles (vocabulaire, grammaire, références...), en s'interrogeant sur les fonctions et effets de ce texte.

9. その他：なし

科目名：フランス語学研究演習Ⅳ／ French Linguistics(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 月曜日 5講時

学期：2学期, **単位数：**2

担当教員：MEVEL YANN ERIC (准教授)

講義コード：LM21502, **科目ナンバリング：**LGH-LIT647F, **使用言語：**英語以外の外国語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： フランス語学研究演習Ⅳ 】

1. 授業題目：

Pascal Quignard

2. Course Title (授業題目)：

Pascal Quignard

3. 授業の目的と概要：

- approches thématiques, poétiques et stylistiques d'une œuvre romanesque
- apprentissage du mode d'analyse d'une œuvre complète
- pratique de l'explication de textes littéraires
- pratique de l'argumentation
- analyse de documents

4. 学習の到達目標：

- les modalités du romanesque
- la narration ; le dialogue
- l'écriture poétique
- littérature et cinéma

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Introduction
- 2) Introduction
- 3) Explication de texte
- 4) Explication de texte
- 5) Explication de texte
- 6) Explication de texte
- 7) Explication de texte
- 8) Explication de texte
- 9) Explication de texte
- 10) Explication de texte
- 11) Explication de texte
- 12) Explication de texte
- 13) Explication de texte
- 14) Explication de texte
- 15) Explication de texte
- 16) Travaux d'étudiants

6. 成績評価方法：

L'évaluation prendra d'abord la forme d'un contrôle continu, qui demande une participation active aux cours. Celui-ci comptera pour 50% dans l'évaluation globale. À la fin du semestre, il s'agira de présenter un exposé sur l'œuvre étudiée (25%) et, par écrit, un bref compte rendu critique (25%).

7. 教科書および参考書：

Pascal Quignard, Villa Amalia, Paris, Gallimard, coll. Folio (pour des raisons de pagination, veiller à se procurer la dernière édition)

8. 授業時間外学習：

Pour toute explication de texte, il faudra avant le cours effectuer les recherches utiles (vocabulaire, grammaire, références...), en s'interrogeant sur les fonctions et effets de ce texte.

9. その他：なし

科目名：フランス文学研究演習Ⅰ／ French Literature(Advanced Seminar)Ⅰ

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：今井 勉（教授）

講義コード：LM13206， 科目ナンバリング：LGH-LIT648J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： フランス文学研究演習Ⅰ 】

1. 授業題目：

文学と表象芸術（1）

2. Course Title（授業題目）：

Literature and arts（1）

3. 授業の目的と概要：

ポール・ヴァレリーの芸術批評を主な題材として、19 世紀と 20 世紀における文学と芸術（特に絵画）との関わりについて考察します。この授業では、ヴァレリーのドガ論『ドガ ダンス デッサン』を中心に、マネやベルト・モリゾらについての文章を読んでいきますが、さらに、ボードレール、マラルメ、ゾラ、ユイスマンスといった作家の芸術論にも触れていきます。

4. 学習の到達目標：

文学者による芸術批評を読み、文学と表象芸術（特に絵画）との密接な関係について具体的な知識を獲得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

（以下、授業の進度については変更される場合があることをあらかじめご了承ください。）

第 1 回 導入

第 2 回 「カラーをめぐる」を読む（1）

第 3 回 「カラーをめぐる」を読む（2）

第 4 回 「カラーをめぐる」を読む（3）

第 5 回 「カラーをめぐる」を読む（4）

第 6 回 「ベルト・モリゾ」を読む（1）

第 7 回 「ベルト・モリゾ」を読む（2）

第 8 回 「ベルト・モリゾ」を読む（3）

第 9 回 「ベルト・モリゾについて」を読む（1）

第 10 回 「ベルト・モリゾについて」を読む（2）

第 11 回 「ベルト・モリゾについて」を読む（3）

第 12 回 「オノレ・ドーミエ」を読む（1）

第 13 回 「オノレ・ドーミエ」を読む（2）

第 14 回 「エルネスト・ルアールを偲んで」を読む（1）

第 15 回 「エルネスト・ルアールを偲んで」を読む（2）

6. 成績評価方法：

予習したうえでの授業への参加状況 100%

7. 教科書および参考書：

プリントを配付します。

8. 授業時間外学習：

毎回、十分な予習が必要となります。

9. その他：なし

科目名：フランス文学研究演習Ⅱ／ French Literature(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：今井 勉（教授）

講義コード：LM23205， 科目ナンバリング：LGH-LIT649J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： フランス文学研究演習Ⅱ 】

1. 授業題目：

文学と表象芸術（2）

2. Course Title（授業題目）：

Literature and arts（2）

3. 授業の目的と概要：

ポール・ヴァレリーの芸術批評を主な題材として、19 世紀と 20 世紀における文学と芸術（特に絵画）との関わりについて考察します。この授業では、ヴァレリーのドガ論『ドガ ダンス デッサン』を中心に、マネやベルト・モリゾらについての文章を読んでいきますが、さらに、ボードレール、マラルメ、ゾラ、ユイスマンスといった作家の芸術論にも触れていきます。

4. 学習の到達目標：

文学者による芸術批評を読み、文学と表象芸術（特に絵画）との密接な関係について具体的な知識を獲得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

（以下、授業の進度については変更される場合があることをあらかじめご了承ください。）

第1回 アントワーズ・コンパニオンボードレール論を読む（1）

第2回 アントワーズ・コンパニオンのボードレール論を読む（2）

第3回 ヴアレリー『ドガ ダンス デッサン』から断章を読む（1）

第4回 ヴアレリー『ドガ ダンス デッサン』から断章を読む（2）

第5回 ヴアレリー『ドガ ダンス デッサン』から断章を読む（3）

第6回 ヴアレリー『ドガ ダンス デッサン』から断章を読む（4）

第7回 ヴアレリー『ドガ ダンス デッサン』から断章を読む（5）

第8回 マラルメの美術批評を読む（1）

第9回 マラルメの美術批評を読む（2）

第10回 ゾラの美術批評を読む（1）

第11回 ゾラの美術批評を読む（2）

第12回 ユイスマンスの美術批評を読む（1）

第13回 ユイスマンスの美術批評を読む（2）

第14回 補足またはまとめの考察（1）

第15回 補足またはまとめの考察（2）

6. 成績評価方法：

予習したうえでの授業への参加状況 100%

7. 教科書および参考書：

プリントを配付します。

8. 授業時間外学習：

毎回、十分な予習が必要となります。

9. その他：なし

科目名：フランス文学研究演習Ⅲ／ French Literature(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 月曜日 3講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：黒岩 卓 (准教授)

講義コード：LM11304, **科目ナンバリング：**LGH-LIT650J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： フランス文学研究演習Ⅲ 】

1. 授業題目：

中世・ルネサンスの仏語仏文学研究 (1)

2. Course Title (授業題目)：

Medieval and Renaissance French Literature (1)

3. 授業の目的と概要：

一昨年度に引き続き、フランス語による神学・哲学的散文の嚆矢であり、思想史的にも重要な位置を占めるジャン・カルヴァンの『キリスト教綱要』の 1541 年フランス語版 (Olivier Millet 校訂版) を読みます。近代校訂諸版を適時参照し、テキスト校訂に関わる諸問題を同時に考える機会としたいとも考えています。これまでに受講していない人や中期フランス語を読んだ経験が無い人でも、現代フランス語の十分な知識があれば受講が可能です。また、後期のフランス文学研究演習Ⅳと共に受講することで、より深い知識が得られます。

4. 学習の到達目標：

中期フランス語およびそれによって書かれた作品の研究に関する基礎知識を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

(以下、テキスト購読と並行してとりあげるトピックを記します。順番などは適時変更することがあり得ます。)

第一回 中期フランス語入門 1

第二回 中期フランス語入門 2

第三回 中期フランス語の辞書と文法書

第四回 近代校訂版とは

第五回 テキスト校訂の種々の立場

第六回 写本と印刷本

第七回 書誌の作り方

第八回 雑誌

第九回 歴史音声学

第十回 ラテン語

第十一回 古フランス語

第十二回 古典フランス語

第十三回 句読点

第十四回 韻文と散文

第十五回 まとめ

6. 成績評価方法：

出席 100%

7. 教科書および参考書：

Jean Calvin, Institution de la religion chrétienne (1541), éd. par Olivier Millet, Genève, Droz, 2008.

8. 授業時間外学習：

当該のテキストの予習が必要になります。

9. その他：なし

科目名：フランス文学研究演習Ⅳ／ French Literature(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

学期：2 学期, **単位数：**2

担当教員：黒岩 卓 (准教授)

講義コード：LM21306, **科目ナンバリング：**LGH-LIT651J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： フランス文学研究演習Ⅳ 】

1. 授業題目：

中世・ルネサンスの仏語仏文学研究 (2)

2. Course Title (授業題目)：

Medieval and Renaissance French Literature (2)

3. 授業の目的と概要：

前期に引き続き、フランス語による神学・哲学的散文の嚆矢であり、思想史的にも重要な位置を占めるジャン・カルヴァンの『キリスト教綱要』の 1541 年フランス語版 (Olivier Millet 校訂版) を読みます。近代校訂諸版を適時参照し、テキスト校訂に関わる諸問題を同時に考える機会としたいとも考えています。これまでに受講していない人や中期フランス語を読んだ経験が無い人でも、現代フランス語の十分な知識があれば受講が可能です。前期のフランス文学研究演習Ⅲと共に受講することで、より深い知識が得られます。

4. 学習の到達目標：

中期フランス語およびそれによって書かれた作品の研究に関する基礎知識を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

(以下、テキスト購読と並行してとりあげるトピックを記します。順番などは適時変更することがあり得ます。)

第一回 前期の復習

第二回 聖書

第三回 古代の教父たち

第四回 中世神学 (1)

第五回 中世神学 (2)

第六回 中世神学 (3)

第七回 対抗宗教改革

第八回 日本におけるキリスト教伝来

第九回 仙台とキリスト教

第十回 プロテスタント作家 (十六世紀)

第十一回 プロテスタント作家 (十七世紀以降)

第十二回 カルヴァン主義と芸術

第十三回 後世への影響 (世界)

第十四回 後世への影響 (日本)

第十五回 まとめ

6. 成績評価方法：

出席 100%

7. 教科書および参考書：

Jean Calvin, Institution de la religion chrétienne (1541), éd. par Olivier Millet, Genève, Droz, 2008.

8. 授業時間外学習：

当該のテキストの予習が必要になります。

9. その他：なし